

金沢市立額中学校
令和元年度 学力向上の取組（2学期）

1 研究主題 「自ら学び、豊かな人間関係を育む学習活動の充実」
～学びの意欲を引き出す教育活動の工夫～

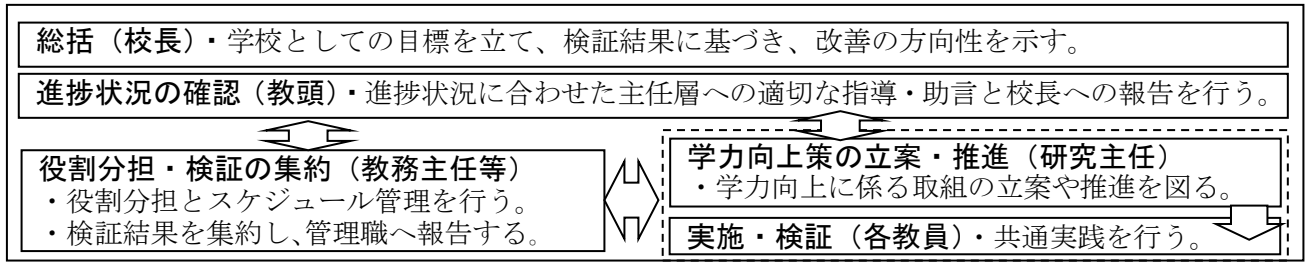
2 現状・課題（各種学力調査結果、令和元年度学力分析シート等から）

<p>(1) 児童生徒の現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年生の全国学力調査では、国語、英語は国の平均正答率を上回ったが、数学、英語「話すこと」が下回った。数学は、現3年生の1年時の市到達度問題では市平均正答率の-0.7pであったが、2年評価問題では県平均正答率の-4.5p、3年全国調査では全国平均正答率の-2.4p、県平均正答率の-6.2pであった。数学はもともと得意な教科ではなかったが、現在は苦手意識を持っている生徒も多いことが生徒アンケートからもわかった。また、英語「話すこと」は全国平均正答率の-2.5pであった。話すための基本的な知識が身に付いていない生徒が多いとの教科担当の分析もあった。社会、理科はそれぞれ県学力調査の県の平均正答率を-2.6p、-0.9p下回った。受験に向けて確かな学力を身に付けられるようサポートをしていきたい。 1年生では、国・社・数・理のいずれの教科も市の平均正答率を下回ったので、今後基本的な学力を付けていくことが課題である。 	
<p>(2) 重点的に行う取組の現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内のアンケートでは、「授業中の話し合いの活動を通じて、考えを深めたり、広げたりしている」の問いに対し、教員は92%であるが、生徒は75.6%である。また、グループ活動は教員の92%が行っていると考えているが、積極的に取り組んでいると考えている生徒は78.3%と教員と生徒の意識の差が大きいことがわかった。個々の教員の取り組み方や生徒への意識のさせ方の差などが考えられるため、授業の中での取組を考えていきたい。 	

3 重点的に行う取組と検証 ※1学期と変更した箇所は「MSゴシック体」にする

4 年間計画

		授業で行う取組		授業以外で行う取組	
		取組①	取組②	取組①	取組②
重点的に行う取組		ペアやグループ活動、近くの生徒同士で相談など、生徒の間で話し合う活動では、考えさせる時間をさらに確保している。	「まとめ」を行い、穴埋めやキーワードを使ったまとめを書いたり、生徒自身の言葉や地図、模式図などを何でも説明できるよう指導する。	基礎的な学習内容の定着のために、定期テスト前に基本プリント(学年共通)に取り組ませる。	家庭学習で、基礎的な知識の定着を図るための課題に取り組みさせる
検証の方法と指標	指導の状況	方法 実践した授業は週案に「G」を書き込む。 指標 実施 100%	方法 週案にまとめの内容を記入する。 指標 実施 100%	方法 テスト前に家庭学習で基本プリントに取り組ませる。 指標 実施 100%	方法 自学ノートでの学習内容を指定する。 指標 毎日点検
	児童生徒の状況	方法 12月の生徒アンケートで確認する。 指標 肯定的な割合 85%以上	方法 7月の生徒アンケートで確認する。 指標 肯定的な割合 70%以上	方法 基本プリントの達成度を確認する。 指標 80%以上の理解	方法 家庭学習が行われていない時は学校でさせる。 指標 課題提出90%



月	PDCA	授業で行う取組	研究授業	授業以外で行う取組
7・8月	分析 計画	主幹教諭 研究主任 が各教科での学力調査結果分析について職員会議で日程等を提案・確認する。 全教員 が学力調査結果分析を関係する教科部会でを行う。 主幹教諭 がアンケート等から学校の成果と課題を集約する。 研究主任 が 校長・教頭・主幹教諭 とともに学力向上策の見直し・検討を行い、職員会議で具体的な共通の取り組みを提案する。 全教員 教科代表 が教科部会で教科ごとに2学期の取り組みについて共通理解を行う。		
9・10月	実践 検証	全教員 がグループ・ペア活動や課題に対するまとめ、授業前の自主学習の指導などを授業で行う。 主幹教諭 が週案での指導の状況を集約し、教科間、教員間差を確認する。	辻岡教諭 小山教諭 中田教諭 松尾教諭 宮坂教諭 八田教諭 岡嶋教諭	全教員 学年主任 が基本プリントの生徒の到達度を確認する。 全教員 が自学ノートでの学習の内容を把握し細やかに指導する。 全教員 がテスト前の基本プリントでの学習の取り組みを行う。
11月	改善	研究主任 が指導の状況や研究授業参観者の意見などから 教頭 主幹教諭 とともに改善策を提案する。 全教員 が改善策を実践する。	北 教諭 吉岡教諭 前波教諭 大場教諭 舟津教諭 山下教諭 西宮教諭 中村教諭 三井教諭	教科部会 で教科代表を中心として指導の状況や生徒の状況を確認し、改善を行う。
12月	検証	主幹教諭 が指導の状況及び生徒の状況について達成状況をまとめる。	石川教諭 近藤教諭 吉村教諭 竹内教諭 畑 教諭 中田教諭	研究主任 学年主任 が指導の状況及び生徒の状況について達成状況を確認し、学年会、教科部会を行う。 校長・教頭・主幹教諭・研究主任 2学期の成果と課題を整理する

評価問題を「学力向上の取組（2学期）」の検証の機会とする。

令和2年1月以降は、「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践するため、各学校は以下の内容について、加除修正する必要はない。

1月	評価問題の結果に基づき、「学力分析シート」を作成する。 分析結果から「学力向上の取組（3学期）」を作成する。
2、3月	「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践・検証・改善を行う。